

福祉のみを利用している者と入所している者との差はほとんどみられなかった。利用状況別に群間比較すると、転入群の方が在宅福祉のみを利用している者の得点が高く、市内転居群の方が入所している者の得点が低く、老研式活動能力指標と同様の傾向がみられた。したがって転入群は在宅福祉サービスを利用している者の日常生活能力が低く、市内転居群は入所している者の日常生活能力が高いことが示された。このことは、介護ニーズが同じであったとしても、他の自治体から移動してきた高齢者の方が、特別養護老人ホームなどに入所できず、在宅で福祉サービスを受けながら生活している傾向があることを示唆している。全般的に入所サービスは不足している状況にあり、入所までにはある程度の待ち時間が必要となる。他の自治体から転入した転入群は、同じ自治体に居住している市内転居群よりも入所申請が遅くなってしまうため、状態が悪くても入所までの待ち行列に並ぶ必要がある。このような不公平を是正するためには、転入後の早いうちに介護ニーズのアセスメントを実施し、ニーズに適合した福祉サービスを供給できるような体制を整備する必要がある。

傷病の有無との関連をみると、いずれの群も福祉サービスを利用しているの方が有病率が高かった。利用状況別に群間比較すると、市内転居群の方が利用していない者の有病率が高く、入所している者の有病率が低かった。また転入群の方が、在宅福祉のみを利用している者の有病率が高かった。

(3) 移動前後の福祉サービス利用の変化

表 13-1 と表 15-1 で移動前後の福祉サービスの利用状況を比較すると、いずれの群も利用している者の割合が増加し、入所している者の割合が、特に転出群において増加した。また、その傾向は性別、年齢階級別でも同様にみられた。

表 17 に、移動前の福祉サービス利用の状況別にみた移動後の福祉サービス利用の状況を示した。移動前に福祉サービスを利用していなかった者に関しては、転出群で移動後に入所している者の割合が大きかった。移動前に在宅福祉のみを利用していた者に関しては、転入群で移動後に利用していない者の割合が大きく、転出群で移動後に入所している者の割合が大きく、市内転居群で移動後も在宅福祉を利用している者の割合が大きかった。移動前に入所していた者に関しては、転入群で移動後も入所している者の割合が小さく、転出群で移動後に在宅福祉のみを利用している者の割合が小さく、転入群、転出群で移動後に利用していない者の割合が大きかった。この結果からも、転入群の福祉サービスへのアクセスの阻害が観察された。つまり、移動前に在宅福祉サービスを利用していた者の半数近くが移動後には利用できず、移動前に入所していた者の4分の1しか引き続き入所できない状況にあることが示された。また転出群に関しては、移動前に入所していなかった者が移動後に入所する傾向がみられたが、その反面、移動前に入所していた者の約4割は移動後に福祉サービスを利用していない状態にあり、居住移動による福祉サービスへのアクセスの阻害は転出群にも存在していることが示された。

表 18 に、移動前と移動後の福祉サービス利用について、「なし」を0点、「あり」を1点として、移動前後の間の順位相関係数を群別に示した。これは移動前後で福祉サービスの利用状況が変化していないか、つまり移動前に利用していた者は移動後にも利用しているか、あるいは移動前に利用していなかった者は移動後にも利用していないか、の程度を表す指標である。福祉サ

ービス（入所と在宅福祉を含む）の利用、入所サービスの利用ともに、転出群、転入群は市内転居群と比較して順位相関係数が低く、福祉サービス利用の状況が移動前後で変化していることが示された。この結果は、表 17 の結果と同様に、他の自治体への居住移動が福祉サービスへのアクセスを阻害する要因となっていることを示唆している。特に転入群は特に順位相関係数が低いことから、他の自治体から居住移動した者に対して、速やかにニーズのアセスメントを実施し、ニーズに適合した福祉サービスを供給できるようなシステムを確立する必要があると考えられる。

7. 社会活動

老研式活動能力指標や介助の必要度の結果から、居住移動している高齢者の多くは比較的健康で自立した生活を送っていることが示されている。したがって移動高齢者の健康状態を、病気であるかどうか、寝たきりであるかどうか、といった消極的な捉え方ではなく、より活動的な生活を送っているかどうか、というより積極的な捉え方によって明らかにする必要がある。ここでは「社会活動」という概念を用いて、移動高齢者がどの程度地域社会に参加あるいは貢献しているかを分析した。

社会活動として、町内会・自治会活動、老人会、ボランティア活動などの「社会参加・奉仕活動」、老人学級・老人大学、市民講座などの「学習活動」、友人とのつきあい、旅行、スポーツ・レクリエーション、趣味・娯楽等の「個人的活動」の3種類の実施状況を把握した。

（1）社会参加・奉仕活動

表 19 に移動前の社会活動（社会参加、奉仕活動）の実施状況を示した。活動をしていた者の割合は、転入群 17%、転出群 12%、市内転居群 15%で、群間で大きな差はみられなかった。性との関連では、いずれの群も男性の方が活動していた者の割合が若干大きかったが、年齢との関連はほとんどみられなかった。

性別で比較すると、男性では転出群で活動していた者の割合が小さかったが、女性では群間で大きな差がみられなかった。年齢階級別で比較すると、65～69 歳、75～79 歳、85 歳～、前期高齢者では転入群で活動していた者の割合が若干大きく、80～84 歳では転入群で活動していた者の割合が若干小さかった。

研式活動能力指標との関連をみると、いずれの群も活動していた者の方が得点が高い傾向がみられた。活動の有無別に群間比較すると、活動していなかった者では市内転居群で得点が高かった。介助の必要度との関連をみると、いずれの群も活動していた者の方が得点が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していなかった者では市内転居群で得点が低かった。したがって市内転居群は他の群と比較して、活動していなかった者の日常生活能力が高いことが示された。傷病の有無との関連をみると、いずれの群も活動していた者の有病率が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していなかった者では転出群の有病率が低く、活動していた者では市内転居群の有病率が高かった。

表 20 に移動後の社会活動（社会参加、奉仕活動）の実施状況を示した。活動をしている者の割合は、転入群 8%、転出群 9%、市内転居群 13%で、群間で大きな差はみられなかった。性と

の関連では、いずれの群も男性の方が活動している者の割合が若干大きかったが、年齢との関連はみられなかった。

性別で比較すると、男性、女性ともに群間で大きな差がみられなかった。年齢階級別で比較すると、75～79歳では転入群で活動している者の割合が若干小さく、80～84歳では市内転居群で活動している者の割合が若干大きかった。また後期高齢者では、転入群で活動している者の割合が若干小さく、市内転居群で活動している者の割合が若干大きかった。

老研式活動能力指標との関連をみると、いずれの群も活動している者の方が得点が高い傾向がみられた。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では市内転居群で得点が高かった。介助の必要度との関連をみると、いずれの群も活動している者の方が得点が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では市内転居群で得点が低かった。したがって市内転居群は他の群と比較して、活動していない者の日常生活能力が高いことが示された。傷病の有無との関連をみると、いずれの群も活動している者の有病率が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では市内転居群の有病率が高かった。

表 19 と表 20 で移動前後の社会活動（社会参加、奉仕活動）の実施状況を比較すると、いずれの群も活動している者の割合が減少しており、その傾向は転入群、転出群で顕著であった。またその傾向は性別、年齢階級別でも同様にみられた。

表 21 に移動前の活動状況別にみた移動後の活動状況を示した。移動前に活動していなかった者に関しては、その9割が移動後も活動しておらず、その傾向は群間で大きな差がみられなかった。移動前に活動していた者に関しては、転入群、転出群で移動後に活動していない者の割合が大きかった。

（2）学習活動

表 22 に移動前の社会活動（学習活動）の実施状況を示した。活動をしていた者の割合は、転入群 11%、転出群 5%、市内転居群 3%で、転入群で活動していた者の割合が大きかった。性別、年齢との関連では、いずれの群も性別、年齢階級別で大きな差はみられなかった。性別で比較すると、男性、女性ともに転入群で活動していた者の割合が大きかった。年齢階級別で比較すると、65～69歳、75～79歳、85歳～、前期高齢者、後期高齢者では転入群で活動していた者の割合が大きかった。

老研式活動能力指標との関連をみると、いずれの群も活動していた者の方が得点が高い傾向がみられた。活動の有無別に群間比較すると、活動していなかった者では市内転居群で得点が高かった。介助の必要度との関連をみると、いずれの群も活動していた者の方が得点が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していなかった者では市内転居群で得点が低かった。したがって市内転居群は他の群と比較して、活動していなかった者の日常生活能力が高いことが示された。傷病の有無との関連をみると、転入群では活動の有無で有病率に差がみられなかったが、転出群では活動していた者の方が有病率が高く、市内転居群では活動していた者の方が有病率が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していなかった者では市内転居群の有病率が高かった。

表 23 に移動後の社会活動（学習活動）の実施状況を示した。活動をしている者の割合は、転

入群 4%、転出群 5%、市内転居群 3%で、群間で大きな差はみられなかった。性、年齢との関連では、いずれの群も性別、年齢階級別で大きな差はみられなかった。また性別、年齢階級別で群間比較すると、いずれも群間で大きな差はみられなかった。

老研式活動能力指標との関連をみると、いずれの群も活動しているの方が得点が高い傾向がみられた。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では市内転居群で得点が高かった。介助の必要度との関連をみると、いずれの群も活動しているの方が得点が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では市内転居群で得点が低かった。したがって市内転居群は他の群と比較して、活動していない者の日常生活能力が高いことが示された。傷病の有無との関連をみると、転入群、市内転居群では活動しているの方が有病率が低く、転出群では活動しているの方が有病率が高かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では転出群の有病率が低く、活動している者では転入群の有病率が低かった。

表 22 と表 23 で移動前後の社会活動（学習活動）の実施状況を比較すると、転入群で活動している者の割合が減少しており、その傾向は性別、年齢階級別でも同様にみられた。

表 24 に移動前の活動状況別にみた移動後の活動状況を示した。移動前に活動していなかった者に関しては、そのほとんどが移動後も活動していないが、転出群は他の群と比較して、移動後に活動している者の割合が大きかった。移動前に活動していた者に関しては、転入群、転出群で移動後に活動していない者の割合が大きかった。

（3）個人的活動

表 25 に移動前の社会活動（個人的活動）の実施状況を示した。活動をしていた者の割合は、転入群 54%、転出群 49%、市内転居群 46%で、転入群で活動していた者の割合が若干大きかった。性、年齢との関連では、いずれの群も男性、年齢の低いの方が活動していた傾向がみられた。

性別で比較すると、男性では市内転居群で活動していた者の割合が小さかったが、女性では群間で大きな差はみられなかった。年齢階級別で比較すると、70～74 歳では市内転居群で活動していた者の割合が小さく、75～79 歳では転入群で活動していた者の割合が大きく、80～84 歳では市内転居群で活動していた者の割合が大きく、85 歳～では転入群で活動していた者の割合が大きかった。また前期高齢者では市内転居群で活動していた者の割合が小さく、後期高齢者では転入群で活動していた者の割合が大きかった。

老研式活動能力指標との関連をみると、いずれの群も活動していたの方が得点が高い傾向がみられた。活動の有無別に群間比較すると、活動していなかった者では市内転居群で得点が高かった。介助の必要度との関連をみると、いずれの群も活動していたの方が得点が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していなかった者では市内転居群で得点が低かった。したがって市内転居群は他の群と比較して、活動していなかった者の日常生活能力が高いことが示された。傷病の有無との関連をみると、いずれの群も活動していたの方が有病率が低かった。活動の有無別に群間比較すると、群間で大きな差はみられなかった。

表 26 に移動後の社会活動（個人的活動）の実施状況を示した。活動をしている者の割合は、転入群 43%、転出群 46%、市内転居群 42%で、群間で大きな差はみられなかった。性、年齢と

の関連では、いずれの群も男性、年齢の低い者の方が活動している傾向がみられた。

性別で比較すると、男性では市内転居群で活動している者の割合が小さかったが、女性では群間で大きな差はみられなかった。年齢階級別で比較すると、65～69歳では市内転居群で活動している者の割合が小さく、70～74歳、75～79歳では転出群で活動している者の割合が大きく、80～84歳では市内転居群で活動している者の割合が大きく、85歳～では市内転居群で活動している者の割合が小さかった。また前期高齢者では市内転居群で活動している者の割合が小さかった。

老研式活動能力指標との関連をみると、いずれの群も活動している者の方が得点が高い傾向がみられた。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では市内転居群で得点が高かった。介助の必要度との関連をみると、いずれの群も活動している者の方が得点が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では市内転居群で得点が低かった。したがって市内転居群は他の群と比較して、活動していない者の日常生活能力が高いことが示された。傷病の有無との関連をみると、いずれの群も活動している者の方が有病率が低かった。活動の有無別に群間比較すると、活動していない者では市内転居群の有病率が高かった。

表 25 と表 26 で移動前後の社会活動（個人的活動）の実施状況を比較すると、いずれの群も活動している者の割合が減少しており、その傾向は転入群で顕著にみられた。またその傾向は性別、年齢階級別でも同様にみられた。

表 27 に移動前の活動状況別にみた移動後の活動状況を示した。移動前に活動していなかった者に関しては、そのほとんどが移動後も活動していないが、転出群は他の群と比較して、移動後に活動している者の割合が大きかった。移動前に活動していた者に関しては、転入群、転出群で移動後に活動していない者の割合が大きかった。

（4）移動後の社会活動に影響を及ぼす要因

上記の結果より、いずれの群も移動後に社会活動をしている者の割合が減少し、特に転入群でその傾向が強いこと、転入群は移動前に活動していたが移動後には活動していない者が多いこと、転出群も移動前に活動していたが移動後には活動していない者が多いが、移動前に活動していなかったが移動後には活動している者も多いため、全体としては活動している者の減少の程度は大きくないこと、が示された。

表 28 に、移動前と移動後の社会活動について、「なし」を0点、「あり」を1点として、移動前後の間の順位相関係数を群別に示した。これは移動前後で社会活動の状況が変化していないか、つまり移動前に活動していた者は移動後にも活動しているか、あるいは移動前に活動していなかった者は移動後にも活動していないか、の程度を表す指標である。社会参加、奉仕活動、学習活動、個人的活動ともに、転出群、転入群は市内転居群と比較して順位相関係数が低く、社会活動の状況が移動前後で変化していることが示された。

以上の結果から、転入群、転出群における社会参加、奉仕活動の減少は明らかであることが示された。居住移動した高齢者は新しい地域での友人や仲間が少なく、社会活動を実施するのが困難な状況にあると考えられる。しかし社会活動の減少は居宅内への引きこもりから健康状態の悪化を誘発する可能性がある。したがって、居住移動した高齢者に対しては自治会や老人クラブへの入会を勧め、また自治会や老人クラブに対しては新しく転入してきた高齢者に関する情報を提

供することによって、居住移動後の仲間づくりを促進していく必要があると考えられる。

社会活動と健康状態との関連で、市内転居群は活動していない者の日常生活能力が高いことが示された。これは、社会活動を実施する能力があるにも関わらず、何らかの理由で実施していない者が多いことを示している。健康状態の悪化を予防するための手段の一つとして、このような高齢者に対しても社会活動を促進するような施策が必要であると考えられる。

8. 移動理由

移動理由を「家族関係のため」、「自分の身体状況のため」、「配偶者の身体状況のため」、「仕事の関係のため」、「住宅事情のため」、「生活環境のため」に分類し、該当する項目を複数回答で設問し、さらにその中で最も大きな理由を設問した。ここでは、健康や医療・福祉に関連する移動理由に焦点を当てた。具体的には、「自分の身体状況のため」として「病院に入院するため」、「老人ホーム・老人保健施設に入所するため」、「入院・入所するほどではないが身体が弱ったから」の3カテゴリー、「配偶者の身体状況のため」として「病院に入院するため」、「老人ホーム・老人保健施設に入所するため」、「入院・入所するほどではないが身体が弱ったから」の3カテゴリー、「生活環境のため」として「医療機関の利用が便利だから」「福祉サービスを受けるため」の2カテゴリーについて分析した。

(1) 主な移動理由

表 29—1、表 29—2 に主な移動理由の回答状況を示した。転入群では「自分の身体が弱ったから」と答えた者の割合が顕著に大きかった。しかし転入群は、他の群と比較して老研式活動能力指標や介助の必要度が特に悪い状態ではなかったため、意識としての健康状態の悪化を感じているに過ぎないと考えられる。

転出群では「自分が老人ホーム・老人保健施設に入所するため」と答えた者の割合が顕著に大きかった。転出群の移動後の入所者の割合は他の群と比較して顕著に大きく、この移動理由は実際の福祉サービス利用の状況を反映していることが示された。

市内転居群では健康に関連する項目を主な移動理由とした者は少なく、健康状態を直接的な理由として移動している者は少ないことが示された。

性別、年齢階級別で比較しても対象者全体でみた場合と同様の傾向がみられた。

(2) 移動理由（複数回答）

表 30—1、表 30—2、表 30—3 に複数回答で設問した移動理由の回答状況を示した。主な移動理由と同様に、転入群では「自分の身体が弱ったから」、転出群では「自分が老人ホーム・老人保健施設に入所するため」と答えた者の割合が顕著に大きかった。それ以外では、市内転居群で「医療機関の利用が便利だから」と答えた者の割合が小さかった。同じ自治体内への移動では医療機関のアクセスは大きく変化しないため、これが移動理由にはなりえないことを示している。

性別で比較すると、転入群、転出群の移動理由の傾向は、男性、女性ともに対象者全体でみた場合と同様であったが、その傾向は特に女性に強くみられた。市内転居群の移動理由の傾向は、女性ではみられたが、男性ではみられなかった。

年齢階級別で比較すると、転入群の移動理由の傾向は、前期・後期高齢者ともに対象者全体でみた場合と同様であった。転出群の移動理由の傾向は、後期高齢者ではみられたが、前期高齢者ではみられなかった。また後期高齢者では、転出群で「自分が病院に入院するため」と答えた者の割合が若干大きかった。市内転居群の移動理由の傾向は、前期・後期高齢者ともに対象者全体でみた場合と同様であった。

(3) 自分の健康状態が移動理由である者の状況

複数回答で設問した移動理由に関して、「自分の身体状況のため」の3カテゴリーのいずれかに該当する者を「自分の健康状態が移動理由である者」、いずれにも該当しない者を「自分の健康状態が移動理由ではない者」として、両者の特性の違いを検討した。

表31に、自分の健康状態が移動理由である者の状況を示した。健康が理由である者の割合は、転入群30%、転出群30%、市内転居群13%で、転入群、転出群で健康が理由である者の割合が大きかった。性、年齢との関連では、いずれの群も女性、年齢の高い者の方が健康を理由とする傾向がみられた。

性別で比較すると、男性、女性ともに転入群、転出群で健康が理由である者の割合が大きく、対象者全体でみた場合と同様の傾向がみられた。年齢階級別で比較すると、75～79歳、80～84歳、後期高齢者では転入群、転出群で健康が理由である者の割合が大きかった。

老研式活動能力指標との関連をみると、いずれの群も健康が理由である者の方が得点が低い傾向がみられた。健康理由の有無別に群間比較すると、転入群、転出群で健康が理由である者の得点が低かった。介助の必要度との関連をみると、いずれの群も健康が理由である者の方が得点が高かった。健康理由の有無別に群間比較すると、転入群、転出群で健康が理由である者の得点が高かった。したがって転入群、転出群は市内転居群と比較して、健康が理由である者の日常生活能力が低いことが示された。傷病の有無との関連をみると、いずれの群も健康が理由である者の方が有病率が高かった。健康理由の有無別に群間比較すると、健康が理由でない者では転出群で有病率が低かった。

以上の結果から、転入群、転出群では、自分の健康を理由として移動した者は実際に悪い健康状態にあり、移動理由としての健康が、意識の上でも、実際でも重要な要因であることが示された。

表1. 老研式活動能力指標

		転入群	転出群	市内転居群	
対象者全体	0点	25 8%	70 15%	15 5%	**
	1~3点	37 12%	48 10%	29 9%	
	4~6点	40 13%	39 8%	44 13%	
	7~9点	119 40%	170 35%	144 43%	
	10点	80 27%	153 32%	103 31%	
	Mean	6.86	6.69	7.47	**
	S. D.	3.35	3.73	2.94	
男性	Mean	7.47	7.84	7.66	
	S. D.	3.12	3.02	2.84	
女性	Mean	6.61	6.06	7.34	**
	S. D.	3.42	3.93	3.01	
65~69歳	Mean	8.74	8.67	8.69	
	S. D.	1.73	2.19	1.81	
70~74歳	Mean	8.05	7.75	8.14	
	S. D.	2.29	3.07	2.21	
75~79歳	Mean	6.41	6.72	6.70	
	S. D.	3.40	3.46	3.24	
80~84歳	Mean	5.23	4.25	6.22	*
	S. D.	3.43	4.00	3.54	
85歳~	Mean	3.40	2.97	3.58	
	S. D.	3.73	3.40	3.02	
65~74歳	Mean	8.34	8.28	8.45	
	S. D.	2.09	2.64	2.00	
75歳~	Mean	5.10	4.68	5.98	**
	S. D.	3.71	3.94	3.47	

(* $p < 0.05$ ** $p < 0.01$)

表2. 日常生活の介助の必要度

		転入群	転出群	市内転居群	
対象者全体	自立している	162	280	213	**
		55%	59%	64%	
	何らかの障害は	76	71	74	
	あるが、ほぼ自立	26%	15%	22%	
	外出に介助が必要	36	79	32	
		12%	17%	10%	
	屋外での生活に	7	28	8	
介助が必要	2%	6%	2%		
I 日中ベッド上で	13	20	4		
過ごす	4%	4%	1%		
得点	Mean	2.25	2.43	1.83	**
	S. D.	1.98	2.19	1.51	
男性	Mean	1.97	1.75	1.70	
	S. D.	1.89	1.77	1.50	
女性	Mean	2.38	2.81	1.91	**
	S. D.	2.01	2.31	1.52	
65~69歳	Mean	1.35	1.41	1.22	
	S. D.	0.66	1.20	0.55	
70~74歳	Mean	1.73	1.90	1.60	
	S. D.	1.39	1.74	1.21	
75~79歳	Mean	2.52	2.44	1.98	
	S. D.	2.32	2.05	1.56	
80~84歳	Mean	2.81	3.76	2.66	*
	S. D.	1.95	2.63	1.99	
85歳~	Mean	3.93	4.16	3.58	
	S. D.	2.69	2.48	2.32	
65~74歳	Mean	1.57	1.62	1.39	
	S. D.	1.15	1.47	0.91	
75歳~	Mean	3.06	3.45	2.50	**
	S. D.	2.41	2.50	1.94	

(* p < 0.05 ** p < 0.01)

表3. 傷病の状況

		転入群	転出群	市内転居群	
対象者全体	有病者数	229	357	270	*
	有病率	77%	73%	80%	
病気の種類 (複数回答)					
	高血圧	104	125	106	*
		46%	35%	40%	
	心臓病	54	66	48	
		24%	19%	18%	
	脳出血・脳梗塞	26	44	28	
		12%	12%	11%	
	呼吸器疾患	19	26	26	
		9%	7%	10%	
	胃腸病	26	31	40	*
		12%	9%	15%	
	糖尿病	35	44	40	
		16%	12%	15%	
	関節炎・神経痛	61	77	75	
		27%	22%	29%	
	外傷・骨折	17	17	8	
		8%	5%	3%	
	その他	66	132	71	*
		30%	37%	27%	
男性	有病者数	68	118	108	
	有病率	79%	68%	78%	
女性	有病者数	161	239	162	
	有病率	76%	76%	82%	
65~69歳	有病者数	43	96	86	
	有病率	63%	62%	75%	
70~74歳	有病者数	72	89	73	
	有病率	77%	77%	83%	
75~79歳	有病者数	43	51	56	**
	有病率	88%	70%	90%	
80~84歳	有病者数	37	63	37	
	有病率	88%	81%	80%	
85歳~	有病者数	34	58	18	
	有病率	77%	84%	69%	
65~74歳	有病者数	115	185	159	
	有病率	71%	69%	79%	
75歳~	有病者数	114	172	111	
	有病率	84%	78%	83%	

(* p<0.05 ** p<0.01)

表4-1. 移動前の医療サービス利用の状況

		転入群	転出群	市内転居群	
対象者全体	利用して	50	102	50	
	いなかった	18%	23%	16%	
	外来医療のみを	191	291	224	
	利用していた	70%	66%	73%	
	入院していた	34	50	32	
		12%	11%	11%	
	不定期の通院				
		117	197	146	
		43%	45%	48%	
	定期的な通院				**
	134	163	128		
	49%	37%	42%		
往診				*	
	8	11	18		
	3%	3%	6%		
訪問看護				*	
	2	11	1		
	1%	3%	0%		
男性	利用して	13	38	22	
	いなかった	16%	25%	18%	
	外来医療のみを	55	103	89	
	利用していた	69%	67%	72%	
	入院していた	12	12	12	
	15%	8%	10%		
女性	利用して	37	64	28	
	いなかった	19%	22%	15%	
	外来医療のみを	136	188	135	
	利用していた	70%	65%	74%	
	入院していた	22	38	20	
	11%	13%	11%		

(* p < 0.05 ** p < 0.01)

表4-2. 移動前の医療サービス利用の状況

		転入群	転出群	市内転居群
65～69歳	利用して	17	39	17
	いなかった	28%	30%	17%
	外来医療のみを 利用していた	41	86	78
	入院していた	67%	66%	77%
		3	5	7
70～74歳		5%	4%	7%
	利用して	12	21	14
	いなかった	15%	20%	18%
	外来医療のみを 利用していた	58	77	55
	入院していた	70%	72%	71%
75～79歳		13	9	8
		16%	8%	10%
	利用して	8	12	8
	いなかった	16%	18%	13%
	外来医療のみを 利用していた	35	48	47
80～84歳		70%	73%	77%
	入院していた	7	6	6
		14%	9%	10%
	利用して	9	15	5
	いなかった	22%	21%	12%
85歳～	外来医療のみを 利用していた	28	44	30
	入院していた	68%	60%	71%
		4	14	7
		10%	19%	17%
	利用して	4	15	6
65～74歳	いなかった	10%	22%	25%
	外来医療のみを 利用していた	29	36	14
	入院していた	73%	54%	58%
		7	16	4
		18%	24%	17%
75歳～	利用して	29	60	31
	いなかった	20%	25%	17%
	外来医療のみを 利用していた	99	163	133
	入院していた	69%	69%	74%
		16	14	15
65～74歳		11%	6%	8%
	利用して	21	42	19
	いなかった	16%	20%	15%
	外来医療のみを 利用していた	92	128	91
	入院していた	70%	62%	72%
75歳～		18	36	17
		14%	18%	13%

表5. 移動前の医療サービス利用の状況と健康状態との関連

		転入群	転出群	市内転居群	
老研式活動能力指標					
利用して	Mean	6.78	6.71	7.29	
いなかった	S. D.	3.18	3.85	3.08	
外来医療のみを	Mean	7.13	7.10	7.79	*
利用していた	S. D.	3.26	3.41	2.64	
入院していた	Mean	4.18	2.65	4.94	*
	S. D.	3.52	3.64	3.77	
介助の必要度					
利用して	Mean	2.00	2.35	1.90	
いなかった	S. D.	1.77	2.20	1.72	
外来医療のみを	Mean	2.14	2.12	1.72	**
利用していた	S. D.	1.80	1.77	1.28	
入院していた	Mean	3.97	5.35	3.23	**
	S. D.	2.78	2.76	2.38	
傷病の状況					
利用して	有病者数	28	52	29	
いなかった	有病率	56%	51%	59%	
外来医療のみを	有病者数	165	247	196	
利用していた	有病率	88%	85%	88%	
入院していた	有病者数	31	47	32	
	有病率	91%	94%	100%	

(* p<0.05 ** p<0.01)

表6-1. 移動後の医療サービス利用の状況

		転入群	転出群	市内転居群	
対象者全体	利用していない	47	84	29	**
		17%	19%	10%	
	外来医療のみを 利用している	206	332	262	
		75%	75%	86%	
	入院している	22	27	15	
		8%	6%	5%	
	不定期の通院	109	203	162	**
		40%	46%	53%	
	定期的な通院	136	172	142	*
		50%	39%	46%	
往診	15	43	20		
	6%	10%	7%		
訪問看護	7	14	3		
	3%	3%	1%		
男性	利用していない	11	31	15	
		14%	20%	12%	
	外来医療のみを 利用している	61	115	102	
		76%	75%	83%	
入院している	8	7	6		
	10%	5%	5%		
女性	利用していない	36	53	14	**
		19%	18%	8%	
	外来医療のみを 利用している	145	217	160	
		74%	75%	87%	
入院している	14	20	9		
	7%	7%	5%		

(* p<0.05 ** p<0.01)

表6-2. 移動後の医療サービス利用の状況

		転入群	転出群	市内転居群	
65～69歳	利用していない	15	33	13	
		25%	25%	13%	
	外来医療のみを 利用している	44	95	87	
		72%	73%	85%	
70～74歳	入院している	2	2	2	
		3%	2%	2%	
	利用していない	13	16	6	
		16%	15%	8%	
75～79歳	外来医療のみを 利用している	65	90	67	
		78%	84%	87%	
	入院している	5	1	4	
		6%	1%	5%	
80～84歳	利用していない	7	16	2	*
		14%	24%	3%	
	外来医療のみを 利用している	39	45	55	
		78%	68%	90%	
85歳～	入院している	4	5	4	
		8%	8%	7%	
	利用していない	6	14	5	
		15%	19%	12%	
65～74歳	外来医療のみを 利用している	32	49	35	
		78%	67%	83%	
	入院している	3	10	2	
		7%	14%	5%	
75歳～	利用していない	6	5	3	
		15%	8%	13%	
	外来医療のみを 利用している	26	53	18	
		65%	79%	75%	
65～74歳	入院している	8	9	3	
		20%	13%	13%	
	利用していない	28	49	19	*
		19%	21%	11%	
75歳～	外来医療のみを 利用している	109	185	154	
		76%	78%	86%	
	入院している	7	3	6	
		5%	1%	3%	
75歳～	利用していない	19	35	10	
		15%	17%	8%	
	外来医療のみを 利用している	97	147	108	
		74%	71%	85%	
75歳～	入院している	15	24	9	
		12%	12%	7%	

(* p<0.05)

表7. 移動後の医療サービス利用の状況と健康状態との関連

		転入群	転出群	市内転居群	
老研式活動能力指標					
利用していない	Mean	7.72	7.25	7.57	
	S. D.	2.80	3.62	3.08	
外来医療のみを 利用している	Mean	6.89	6.72	7.54	**
	S. D.	3.27	3.63	2.85	
入院している	Mean	2.50	1.67	4.79	*
	S. D.	3.17	2.75	3.73	
介助の必要度					
利用していない	Mean	1.60	2.05	1.75	
	S. D.	1.06	1.99	1.46	
外来医療のみを 利用している	Mean	2.24	2.41	1.82	**
	S. D.	1.90	2.09	1.44	
入院している	Mean	5.15	5.73	3.79	
	S. D.	2.68	2.41	2.67	
傷病の状況					
利用していない	有病者数	14	29	8	
	有病率	30%	35%	28%	
外来医療のみを 利用している	有病者数	188	292	234	
	有病率	92%	88%	90%	
入院している	有病者数	22	25	15	
	有病率	100%	93%	100%	

(* p<0.05 ** p<0.01)

表8. 移動前後の医療サービス利用の変化

(移動前)	(移動後)	転入群	転出群	市内転居群
利用して いなかった	利用していない	26	53	22
		52%	52%	44%
	外来医療のみを 利用している	19	47	24
		38%	46%	48%
	入院している	5	2	4
		10%	2%	8%
外来医療のみを 利用していた	利用していない	18	24	7
		9%	8%	3%
	外来医療のみを 利用している	166	260	213
		87%	89%	95%
	入院している	7	7	4
		4%	2%	2%
入院していた	利用していない	3	7	0
		9%	14%	0%
	外来医療のみを 利用している	21	25	25
		62%	50%	78%
	入院している	10	18	7
		29%	36%	22%

表9. 移動前と移動後の医療サービス利用の間の順位相関係数

	医療サービス利用	入院サービス利用
転入群	0.437 **	0.296 **
転出群	0.460 **	0.446 **
市内転居群	0.521 **	0.269 **

(** p < 0.01)

表10. 移動前の被介護状況

		転入群	転出群	市内転居群		
対象者全体	介護を受けて	234	344	246	*	
	いなかった	86%	81%	88%		
	介護を受けていた	37	80	35		
		14%	19%	13%		
介護者 (複数回答)						
配偶者	介護者	4	14	13	*	
		11%	18%	37%		
	娘	介護者	12	25		12
			32%	32%		34%
	息子	介護者	11	15		6
			30%	19%		17%
	息子の嫁	介護者	8	23		8
			22%	29%		23%
	その他の家族	介護者	3	9		3
			8%	11%		9%
ホームヘルパー等	介護者	12	22	6		
		32%	28%	17%		
男性	被介護者数	7	18	13		
	被介護者の割合	9%	12%	11%		
女性	被介護者数	30	62	22	*	
	被介護者の割合	16%	23%	14%		
65~69歳	被介護者数	1	6	4		
	被介護者の割合	2%	4%	4%		
70~74歳	被介護者数	5	10	6		
	被介護者の割合	6%	10%	8%		
75~79歳	被介護者数	7	8	8		
	被介護者の割合	15%	13%	15%		
80~84歳	被介護者数	7	23	8		
	被介護者の割合	18%	33%	22%		
85歳~	被介護者数	17	33	9		
	被介護者の割合	44%	58%	39%		
65~74歳	被介護者数	6	16	10		
	被介護者の割合	4%	7%	6%		
75歳~	被介護者数	31	64	25	*	
	被介護者の割合	25%	34%	22%		
老研式活動能力指標						
介護を受けて	Mean	7.43	7.91	8.05	*	
	S. D.	2.88	2.81	2.38		
介護を受けて	Mean	1.97	1.76	2.63		
	S. D.	2.63	2.75	2.73		
介助の必要度						
介護を受けて	Mean	1.89	1.77	1.55	*	
	S. D.	1.60	1.60	1.17		
介護を受けて	Mean	5.06	5.04	4.44		
	S. D.	2.22	2.16	1.88		
傷病の状況						
介護を受けて	有病者数	168	231	194	**	
	有病率	74%	68%	81%		
介護を受けて	有病者数	32	72	31		
	有病率	87%	90%	89%		

(* p<0.05 ** p<0.01)

表11. 移動後の被介護状況

		転入群	転出群	市内転居群	
対象者全体	介護を受けて	215	326	230	
	いない	79%	77%	82%	
	介護を受けている	56	98	51	
		21%	23%	18%	
介護者（複数回答）					
	配偶者	4	17	16	**
		7%	18%	32%	
	娘	26	33	19	
		48%	35%	38%	
	息子	9	12	8	
		17%	13%	16%	
	息子の嫁	15	25	12	
		28%	27%	24%	
	その他の家族	8	10	4	
		15%	11%	8%	
	ホームヘルパー等	11	27	10	
		20%	29%	20%	
男性	被介護者数	12	23	19	
	被介護者の割合	15%	15%	16%	
女性	被介護者数	44	75	32	
	被介護者の割合	23%	27%	20%	
65～69歳	被介護者数	1	11	6	
	被介護者の割合	2%	8%	7%	
70～74歳	被介護者数	13	15	9	
	被介護者の割合	15%	15%	12%	
75～79歳	被介護者数	9	13	12	
	被介護者の割合	19%	21%	22%	
80～84歳	被介護者数	14	27	13	
	被介護者の割合	37%	39%	36%	
85歳～	被介護者数	19	32	11	
	被介護者の割合	49%	56%	48%	
65～74歳	被介護者数	14	26	15	
	被介護者の割合	10%	11%	9%	
75歳～	被介護者数	42	72	36	
	被介護者の割合	34%	39%	32%	
老研式活動能力指標					
介護を受けて	Mean	7.88	8.09	8.28	
いない	S. D.	2.51	2.68	2.12	
介護を受けて	Mean	2.16	2.25	3.29	
いる	S. D.	2.48	2.98	3.08	
介助の必要度					
介護を受けて	Mean	1.60	1.65	1.41	
いない	S. D.	1.20	1.43	0.84	
介護を受けて	Mean	5.04	4.86	4.16	
いる	S. D.	2.15	2.27	2.15	
傷病の状況					
介護を受けて	有病者数	148	215	179	**
いない	有病率	71%	67%	79%	
介護を受けて	有病者数	52	88	46	
いる	有病率	93%	91%	92%	

(** p < 0.01)